

2014.1.16
vol.29

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品

道



二つの孤独な魂の遍歴を、旅芸人の日常の中に描き出し哀調を帯びたメロディーとフェリーニの名を世界に広めた傑作。

監督：フェデリコ・フェリーニ

製作：カルロ・ポンティ

音楽：ニーノ・ロータ

出演：ジュリエッタ・マシーナ

アンソニー・クイン

リチャード・ベースハート

製作：1954年 イタリア モノクロ

上映時間：115分

ヴェネツィア映画祭銀獅子賞

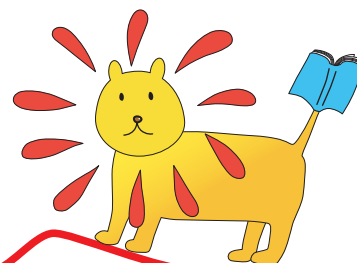
アカデミー外国映画賞

キネマ旬報1位



粗暴な旅芸人のザンパノ（アンソニー・クイン）は、死んだ相棒ローザの代わりに、その妹のジェルソミーナ（ジュリエッタ・マシーナ）を親から安く買い受ける。来る日も来る日も、アメリカ製のオートバイにワゴンを付けたオート三輪で、ザンパノとジェルソミーナの旅から旅の生活が続く。手荒に扱われながらも、やがてジェルソミーナはザンパノを愛するようになる。冬が来て、サーカスに身を寄せた二人の前に、“キ印”と呼ばれる陽気な男イル・マツ（リチャード・ベースハート）が現れる。彼はジェルソミーナに美しい調べを聴かせる。二人の間に不思議な心の交流が芽生え、彼女は生きる勇気を与えられる。しかし……。

会場が明るくなるまで、
席を立たないようにお願いします。



りぶらいおん©LSC

映画を読む 『道』

不思議な体験 (K.M.)

◆登場人物の名前

- ・ジェルソミーナ：イタリア語でジャスミンの意味～純粹さの象徴。但しジャスミンの花ことばは複雑。
- ・ザンパノ：イタリア語で「悪」の意味～悪漢の象徴。
- ・イル・マツト：イタリア語で奇人の意味～「神の道化」のような意味もあるそう。

◆ずっと昔『道』を観た時、例えようもない暗い映画だと思い、その印象がずっと残っていたのですが、今回あらためてじっくり見ている内に、この印象が徐々に薄らぎ、むしろジェルソミーナ、ザンパノ、イル・マツトが三者三様に、それぞれの人生を一生懸命に燃焼したのだという、むしろホッとした温かみさえ含む印象が変わっていくという不思議な体験をしました。

- ・ジェルソミーナは白痴？
⇒とんでもない！ 時に見せる純粹で知的とさえ思える表情としぐさ！
- ・ザンパノは救いようのない「ワル」？
⇒とんでもない！ 随所にほの見える、本人も気づいていないジェルソミーナに対する愛情！
- ・イル・マツトはキ印？
⇒とんでもない！ 軽薄そうな振舞の奥に見える、神を信じる賢く温かい心！

◆終戦直後のイタリアの街道を巡る旅芸人の寒々とした日常を淡々と描きながら、「人間が併せ持つ聖性と獣性の対立と和解」「生がもつ本質的な孤独とその救済」など、人間の内面に踏み込んで見せたフェリーニの主張が、じわじわと浸透してきて改めて感動しました。

『道』のシナリオは、監督のフェリーニ、脚本家のトゥリオ・ピネリ、作家のエンニオ・フライアーノが4カ月を費やして練り上げただけあって、印象的なシーンが無数にあります。

- ・ひと稼ぎをして食堂で夕食をとるシーン
食堂で外食するのは初体験らしいジェルソミーナのワクワクとした態度。ザンパノがつまようじを使うのをまねる演技に注目。

- ・ジェルソミーナが初めてイル・マツトのヴァイオリンを聴くシーン
たばこを吸いながらヴァイオリンを弾くイル・マツトの、吸いかけたたばこの絶妙な置場所⇒ヴァイオリンの糸巻き部に注目。
- ・ザンパノとジェルソミーナの面白い会話のシーン
- ・ザンパノが釈放され、再び旅が始まり久しぶりに海辺に出たシーン
- ・修道院の納屋での夜の会話のシーン
- ・ザンパノが警察に留置された夜の、ジェルソミーナとイル・マツトの会話のシーン
- ・ザンパノに会えば、からかって怒らせてばかりいるイルマツトだが、彼はザンパノに対しても心の底で親愛の情を抱いていたんだと思います。彼は奪おうとすれば奪えたかもしれないジェルソミーナをザンパノのために残して、明けきらぬ朝の街角から去っていきます。この別れのシーン

イル・マツトがジェルソミーナの視界から消える時の最後の言葉は「アッディオ！ジェルソミーナ！」。「アッディオ」も「チャオ」も「サリュエ（フランス語）」も別れの言葉ですが「アッディオ」はスペイン語の「アディオス」やフランス語の「アデュー」同様「神の身許へ」を語源とし、「決定的な別れ」にしか使われない結構重い言葉だそうです。きっとイル・マツトは万感の思いでジェルソミーナに別れを告げたのでしょう。ひょっとすると間もなく「神の身許」に帰ることを予感していたのかもしれませんが。

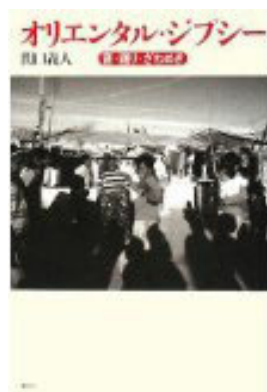
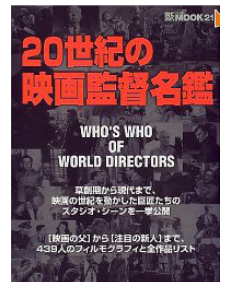
リチャード・ベースハートは表情も含めて極めてデリケートに見事にこのシーンを演技していました。イル・マツトはへらへらして見せているが、愛情深い、神に仕える道化だったのかも。そういえば綱渡りの時、彼は背中に天使の羽根を付けていましたね。

- ・そして有名なザンパノ慟哭のラストシーン

◆以下は「週刊 20 世紀シネマ館 (1957 年の名画 (1))」からの引用。「……ジェルソミーナを「失った」ことに気づき、その深い孤独を味わうことで、長い遍歴の後に「救済」されるザンパノの魂。夜の浜辺でからだをふるわせ、慟哭するザンパノを、広く暗い海と空がそっと包み込む。その情景は、みる者の心に清々しささえ残す、永遠の名場面となった」

『フェデリコ・フェリーニ作品イメージ画集』		TOKYO FM 出版	W 778
『フェリーニ』	ジョン・バクスター / 著	平凡社	778.2
『フェリーニを読む』	岩本 憲児 / 著	フィルムアート社	778
『フェリーニ 夢と幻想の旅人』	川本 英明 / 著	鳥影社	N 778.2
『映画監督という仕事』	フェデリコ・フェリーニ / 著	筑摩書房	778.2
『20 世紀の映画監督名鑑』		共同通信社	778.28
『魂のジュリエッタ』	フェデリコ・フェリーニ / 著	青土社	973

『映画俳優』	佐藤忠男 / 著	晶文社	N 778.2
『オリエンタル・ジプシー』	関口 義人 / 著	青土社	382.9
『ヨーロッパ現代史』	ウォルター・ラカー / 著	芦書房	230.7
『イタリアの田舎町』	時田 慎也 / 著	日経 BP 企画	G293.7
『映画遺産 200 オールタイムベスト』		キネマ旬報社	778.2
『イタリア映画史入門』	ジャン・ピエロ・ブルネッタ / 著	鳥影社	N 778.2
『イタリア映画を読む』 リアリズムとロマネスクの饗宴	柳沢 一博 / 著	フィルムアート社	778.237
『ビデオで観たい名画 200 選』	淀川 長治 / 著	清流出版	N 778.0
『世界の映画ベストセレクション』	渡辺 祥子 / 著	近代映画社	N 778.2
『道 ジェルソミーナ』	笠井 潔 / 著	集英社	913.6
『キネマの文学誌』	斎藤 慎爾 / 著	深夜叢書社	N778.0
『昭和シネマ館』	紀田 順一郎 / 著	小学館	N778.2
『チラシ大全集 Part 1』		近代映画社	778.2



シネマ・ド・リぶら 次回上映会のご案内

vol.
30

そして誰もいなくなった



2月20日(木)

① 10:30 ~ 12:10

② 14:00 ~ 15:40

「マザーグース」の唄にのって次々に消えてゆく10人の男女。推理小説の神様アガサ・クリスティーの原作を映画化した傑作ミステリー。

監督：ルネ・クレール

撮影：ルシアン・アンドリオ

音楽：チャールズ・プレヴィン

脚本：ルネ・クレール

ダドリー・ニコルズ

出演：バリー・フィッツジェラルド

ウォルター・ヒューストン

ジューン・デュプレ

製作：1945年アメリカ モノクロ

上映時間：97分

サロン・ド・シネマ

◆ 場所：ホールホワイエ

寄付金でお茶菓子を提供しています。
映画の上映前後にご利用ください。

『そして誰もいなくなった』テーマ展示

◆ 2月13日(木)～2月25日(火)

◆ 場所：ポピュラーライブラリー

上映予定(毎回木曜日)

4月17日 『バグダッド・カフェ』

6月19日 『舞踏会の手帳』

※8月は図書館まつりで、特別上映会(有料)を開催する予定。

9月18日 『嵐が丘』

10月16日 『英国王のスピーチ』

12月18日 『武器よさらば』

1月15日 『死刑台のエレベーター』

※開催日および上映作品は、変更になる場合があります。

「シネマ・ド・リぶら」の賛助サポーター
受付中！ 年間：1口 2,000円から

託児：500円(各回6名まで)
申込みは、1週間前までに
市民活動センターへ。

図書館のDVD資料だけでは、無料で上映できる作品が限られています。あなたの賛助で、
上映作品の幅が広がります。登録は市民活動センターへ。相談窓口：戸松 090-6574-3312